



ひまわり

VoL.97

部 署 紹 介

外 来



外来では毎日の診療に加え、救急外来対応、消化器内視鏡検査、心臓カテーテル検査、気管支鏡検査、小児外来等の対応を行っています。また化学療法やストーマケア等専門的な分野でも活動しています。

救急外来の昨年度の受け入れ患者総数は5700名となっています。搬送されてきた患者の状況によって優先順位を判断し、臨機応変に対応していかなければなりません。病棟と違い患者や家族と接する時間が限られているため、短時間で必要な情報を得て、主治医、PFM、放射線技師、生理検査技師等、多職種と連携を図りながら方針を決定していきます。緊迫した場面に遭遇する事も少なくないですが、スタッフ間で協力しながら日々の業務に努めています。

<今年度目標>

「変化を恐れず一歩前へ」

中核病院として患者により良い看護の提供に繋がられるよう努めていきます。

【2024年度】

外来患者延数		26,777
救急外来患者数		3,908
普通外来患者数		22,869
時間内患者数（救外含む）		23,287
時間外外来患者数		3,490
救急外来患者数		5,700
うち入院した患者数		1,792
それ以外（救外死亡含む）		3,908
入院患者数		3,070
うち救外受診後入院		1,792
それ以外からの入院		1,278
内視鏡検査		834
うち上部内視鏡		639
うち下部内視鏡		195
気管支鏡検査		131
血管造影室		390
うち検査		172
うち手術		218

HCU病棟

HCU病棟は、急性心疾患(心筋梗塞・心不全等)、脳卒中、急性呼吸器疾患、身体的侵襲の大きな手術後患者や、呼吸・循環動態が不安定で高度救急治療を要する患者を受け入れ、専門的な治療を行った上で、一般病棟への移行まで継続的ケアを提供しています。重篤な状態や急変のリスクが高い患者が多い病棟ですが、患者・家族の気持ちに寄り添い、意思を尊重するため、重症患者メディエーターチームを中心とし、カンファレンスによる情報共有・多職種との連携に力を入れています。



【Aラインの勉強会】

また、多様な専門的知識とスキル習得が必要であり、定期的な勉強会を開催し、病棟全体で専門性の向上を図っています。昨年から他の部署へも参加を呼びかけ勉強会を行っています。昨年はCHDF・IABP・Aライン・スパイナルドレナージ管理等、今年度は経皮ペーシング・同期カルディオバージョン・術後の看護について開催する予定です。

興味のある方は是非ご参加ください。



【スパイナルドレーン勉強会】



2年目課題の活動状況について

4階東病棟 坂本

【HOT導入の目的や手順、指導方法】についてポスターを作成していく予定です。4階東病棟では慢性呼吸不全などで、HOT導入目的で入院される方がいます。HOTを使用している患者を担当することが少なく、使用方法や導入についてなど不明な点や知識不足な部分も多いため、患者へ指導を行うために知識を深めたいと思い取り組んでいます。現在はHOT導入の適応について調べ、導入までの流れについて確認をしています。また、先輩方へ指導内容や指導時の注意など、気になる事がないかを確認しています。患者の不安なことや不明な点など適切に指導できるようまとめ、ポスターを作成していこうと思います。そしてこの学びが安心して退院できるような指導に繋がられるようにしていきたいです。

1 検査・問診 動脈血酸素分圧 (PaO ₂) やパルスオキシメーター による SpO ₂ の値および 自覚症状で総合的に判断	2 給方の決定 ・酸素流量、吸入時間の検討 ・使用機器の選定 ・携帯酸素ポンプへの要否など
4 定期的な指導 定期的な外来・往診・在宅医療による指導・管理。 指導内容（携帯用酸素使用 方法の確認・指導、 HOT実施上の問題点や ACDL 低下の有無、セル フケアのポイントの確認 など）を診療録に記載	3 在宅療法の準備・開始 HOTの必要性や療養上の注 意点、機器類の保守・修理内 容や使用を含めた緊急時の対 処方法を説明。 医療機関の指示でメーカーが 患者宅を訪ね、機器の操作 やメンテナンス、緊急連絡先 などを説明



S-Q U E + ～研修アンケート抜粋～

【研修名】：ラダーⅢ「急変リスクの高い患者の判断と看護ケアの検討」

HCU病棟 石神

急変リスクの高い患者の判断と看護ケアの検討について学習しました。急変後の患者は、自己心拍再開後に全身の虚血再灌流障害に起因する種々の生体反応が惹起された状態である心停止後症候群となる可能性があります。それにより、脳機能や心機能に大きなダメージを与え、多臓器への遷延する影響があり、不可逆的な危機的状態に陥る前段階で、いかに患者の異変に気付くか、気づいた後にどう行動するかが重要となると感じました。今回の学びを活かし、RRSや早期警告スコア (NEWS 2) などのツールを使用し、迅速な対応を要するバイタルサインや急激な状態変化を判断していきたいです。そして主治医への緊急報告、またはコードブルーなどへの対応に役立てたいと思います。



【研修名】：ラダーⅣ「患者と家族の意思決定支援」

～意思決定プロセスの促進と医療チーム、その他資源活用～

外 来 成松



意志決定を支援する際に、救命を第一とする医師の意見と救命だけでは無く、尊厳や苦痛緩和も重要と考える看護師の意見が出た事例がありました。どちらも間違っているわけではありませんが、方向性が統一されないまま進んでしまうとジレンマとなり、チーム医療の弊害となる為、医療者間での共有が大事であると感じました。一方を通すのでは無く、お互いの考えを受け入れる姿勢を持ち、相手の考えも間違っていない事を理解し、建設的に話し合いを行う事が大切であると学びました。また、多職種でのカンファレンスを行う事で、様々な考えや意見を聞き、情報共有を行う事でより良い支援に繋がっていくと思いました。

ラダーⅠ「在宅訪問」について



3階病棟 植村

在宅訪問を通して、A氏の退院後の生活環境及びケアの実際を知ることができました。自宅での生活・療養状況を知ること、患者さんご家族が退院後も安心して過ごせるように継続看護の重要性を理解できました。

在宅ではご家族が、食事介助や吸引・褥瘡ケアなど多くの役割を担っていました。指導は、在宅で実施しやすいよう自宅にある物を活用した現実的な内容が必要であったと感じました。それぞれの環境にあわせた支援と、医療者による早期情報収集や関りが、安心して療養生活を送るための大きな支えになると感じました。



4階東病棟 杉原



HOT導入をされる方の支援を行い、在宅訪問にて、退院後自宅での様子をお伺いしました。携帯酸素を活用することで趣味である家庭菜園を行えるようになり、患者の笑顔を見ることが出来ました。今後看護を行う上で、個別性のある看護を提供するために、患者の生活歴や社会資源の活用状況・趣味など情報を収集し、どうすれば患者が望む生活が出来るのかを考え、支援していく大切さを学ぶことが出来ました。



認定看護師シリーズ

慢性心不全看護認定看護師 4階東病棟師長 皮籠石

慢性心不全看護認定看護師（CN）としての活動について

日本看護協会のCNの役割「CNは看護の現場において実践・指導・相談の3つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献する。」とあります。

実 践	特定の看護分野において、個人・家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。
指 導	特定の看護分野において、看護実践を通して看護者に対し指導を行う。
相 談	特定の看護分野において、看護者に対しコンサルテーションを行う。

現在の活動は、心不全チームを立ち上げ、「抜け目のない指導」を目標に、2週に1回多職種カンファレンスを実施、患者指導へ繋げています（実践）。また、15分程度の勉強会を開催し、患者指導へ繋がられるようにしたり、相談がしやすい体制作りを構築しています（指導・相談）。今後は、心不全外来やテレホン指導などを考えてはいますが、今は目の前にいる患者さんが「早期退院」「再発での入院予防」を目標にCNとしての役割を果たしていきたいと思っています。

第27 回日本医療マネジメント学会学術総会(7/18~19)

回復期リハビリテーション病棟 副師長 有川

宮城県仙台市で開催されました学術総会「クリニカルパス（以下CPと記す）の教育セミナー」へ参加しました。CPは、看護師にとって「業務改善」「リスクマネジメント」「看護の質向上」「医療ケアの標準化」「教育ツール」としての活用が可能です。そのためには、院内の様々なマニュアルや基準、ガイドラインを含めたものになるように定期的な見直しを行っていく必要があります。また、講演では「誤嚥性肺炎地域連携パス」「短期観察入院パス」「心不全地域連携パス」など興味深い内容も聴講でき、改めてCPの有用性について学ぶことができました。当院でも新たなパス作成やバリエーション分析、定期的なパス見直し等を行っていききたいと思います。

（余談ですが、生まれて初めて新幹線ハヤブサに乗りました。とても嬉しかったです。）

第42 回日本手術看護学会 九州地区大会(7/19)

手術室 大六野

今回「第42回日本手術看護学会九州地区大会」に参加させて頂きました。手術室における術後疼痛や火災訓練、褥瘡予防、教育など様々な発表がありました。興味深かったのは「YouTubeを用いた教育」と「脊髄クモ膜下麻酔の穿刺時の疼痛を軽減する」の研究です。YouTubeでの教育は、動画での繰り返しの学習ができるほか、教育のばらつきがなくなるという利点がある一方で、動画の編集や管理が問題となるようでした。穿刺時の疼痛軽減の研究は、中間発表でしたが、実際に現場でできるレベルで、成果があれば、患者さんにとって有益だと思いました。今回の学会に参加させて頂いて学んだことを日々の手術室での看護に生かしていきたいと思います。

マイブーム

3階病棟 上迫田

私の最近のマイブームは、パン屋巡りです。テレビやSNSの情報、友人からの情報をもとに、県内のパン屋を巡っています。鹿児島市内などである“パンフェア”にもよく行きます。友人とランチをしながら近くのパン屋さんに outward、次の日の朝食を楽しみに購入しています。旅行の際も、その土地のパン屋さんの情報があれば outward しています。

これからも美味しいパン屋さん巡りたいと思います。



<編集後記>

まだまだ暑い日が続いています。また、感染症も増えてきていますので、体調管理に十分に気をつけて過ごしていきましょう。

小浦

